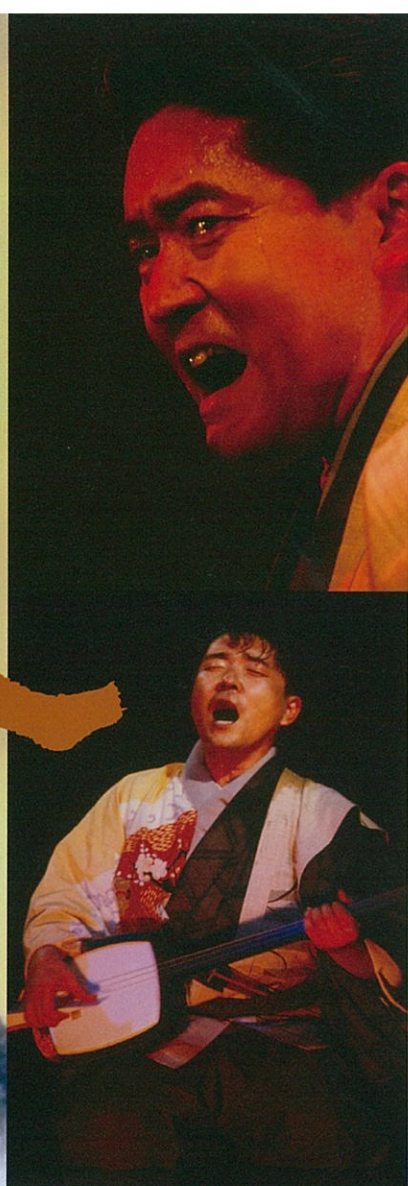


安寿恋しや ほうやれほう

厨子王恋しや ほうやれほう

森鷗外の名作「山椒大夫」の真実とは……？
中世の放浪芸・説経節
一千年の闇を貫き
今、蘇る



中西和久ひとり芝居

さんしやうだゆう・こう

作・演出◎ふじたあさや

音楽◎平井澄子

説経節指導■二代目若松若太夫

音楽監督■高橋明邦

衣裳■中矢恵子

衣裳染織■甲木恵都子

照明■坂本義美

音響■鈴木茂

鳴り物■松田光輝

宣伝写真■永石秀彦

題字■赤松陽構造

制作■月島文乃

茨木市文化振興財団第216回公演

2017年 10月22日[日]15:00 / 真宗大谷派 茨木別院本堂

■主催：公益財団法人茨木市文化振興財団 ■後援：茨木商工会議所 / 茨木市観光協会



【ものがたり】

筑紫安楽寺（現在の太宰府天満宮）へ配流された父、岩城判官正氏を尋ねて、安寿と厨子王の姉弟は、母と乳母とともに奥州を立て長余の旅に出る。が、越後の直井の浦（直江津）で人買いの手に掛かった一行は二艘の船に乗せられて、母は佐渡島へ、安寿と厨子王は丹後由良の長者山椒大夫のもとへと売り分けられてしまう。

涙に暮れる姉弟には過酷な労働が待っていた。二人は逃亡を企てるが、山椒大夫の息子三郎に立ち聞かれてしまい、額に十字の焼印を当てられてしまう。そんな絶望的な日々が続くある日、安寿は弟と一緒に山に芝刈りに行くことを願い出る。雪がまだらに残った岩穴で安寿は厨子王を説き伏せ逃がす。ひとり館へ帰った安寿は火責め水責めの果て、やがて力尽きてしまうのだった……。

国分寺のお聖の助けで追っ手から逃れた厨子王は、都へ上って参内し、丹後の守に任命される。錦を飾って由良に赴いた厨子王を待っていたのは、命を賭して弟を守った、姉の最期の物語だった。やがて母の行方を追って佐渡に渡った厨子王の耳に、眼を泣き潰した老女のかすかな唄声が届いてくる。

「安寿恋しや ほうやれほう 厨子王恋しや ほうやれほう……」

【解説】

『山椒大夫』の物語は、文豪森鷗外の小説で国民的文学となった。原作は中世の説経節の「さんせう太夫」だと言われている。鷗外の小説では安寿と厨子王が人買いに買われ、母とも生き別れになる美しくも悲しい物語だが、説経節は、それよりもだいが骨太な革命劇、祝祭感のある結末となっている。

説経節の『さんせう太夫』は、歌舞伎をはじめ、さまざまな芸能に受け継がれてきた。佐渡の文弥人形、瞽女（ごぜ）唄、祭文など、そのいずれにもその土地土地、その時代の人々の思いが込められて少しずつ変形している。

邦楽界の至宝と謳われた平井澄子の音楽が心に響く。『しのだづま考』（文化庁芸術祭賞）に続く、ふじた・中西コンビによる説経節ひとり芝居第二弾！

〈初演〉1996年

中西和久ひとり芝居

演出◎ふじたあさや
音楽◎平井澄子



中西和久

なかにし・かづひさ

劇団「芸能座」で俳優修業。初舞台は、1977年『浅草キヨシ伝』（作／井上ひさし・演出／小沢昭一）の川端康成役。1986年から自作のひとり芝居『火の玉のはなし』（原作／組坂繁之）をもって全国行脚を始める。『しのだづま考』（作・演出／ふじたあさや）の演技で1991年度文化庁芸術祭賞を受賞。同作品で、国際交流基金主催公演として韓国主要都市を巡演、東欧2ヶ国の国際演劇祭へ招待参加、1998年には新国立劇場開場記念賛助公演を務める。2008年ロシア・エカテリンブルグ国際演劇祭特別賞などを受賞。同年『しのだづま考』モスクワ芸術座公演で絶賛を博す。NHKBSプレミアム『心はものに狂わねど〜中西和久説経節ひとり芝居』、NHKBSハイビジョン特集『作兵衛さんの炭鉱』。KBCラジオ『中西和久ひとり日記』。福岡県文化賞、松本市民劇場賞最優秀俳優賞、倉林誠一郎記念賞受賞。著書『ひとり日記〜このひとに会いたい』（海鳥社刊）ほか。京楽座主宰。

京楽座

平成29(2017)年10月22日[日] 15:00開演(14:30開場) 上演予定時間:100分

真宗大谷派 茨木別院本堂 茨木市別院町3番31号/阪急茨木市駅から西へ徒歩3分/会場に駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

[全席自由(整理番号付チケット)] 一般3,000円/65歳以上、障害者及びその介助者2,500円/青少年(24歳以下)1,000円

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き(この取り扱いは財団のみです)*就学前のお子様はご遠慮ください。

◎チケットは整理番号付です。整理番号順の入場となります。整理番号は窓口での発券順に付番されます。

◎座席は、高低2種の椅子席150席です。

7月6日[木] 9:00予約開始

財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。初日の電話予約は1回につき6枚まで。

◆チケットのお申込み・お問合せ(茨木別院様への問い合わせはご遠慮ください)

茨木市文化振興財団・文化事業係 072-625-3055(9:00~17:00)/インターネットチケットwww.ibabun.jp

予約後は1週間以内に下記のチケットカウンターでご精算ください。チケットの引取り・窓口販売(残席がある場合)は発売翌日からです。

◎クリエイティブセンター1階チケットカウンター(9:00~17:00) ◎福祉文化会館3階チケットカウンター(9:00~17:00)

*インターネット予約については、コンビニ(セブンイレブン、サークルK、サンクス)でご精算・受取いただけます。(要手数料108円)

*予約チケットの郵送をご希望の場合は、〈チケット料金+郵送手数料400円〉を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。

〈払込口座〉00970-7-190576/加入者名:茨木市文化振興財団

◆その他プレイガイド(初日店頭販売あり 10:00~)

ローソンチケット0570-000-407(オペレーター対応)・Lコード予約0570-084-005(Lコード56437)http://l-tike.com/

*ローソンチケットの取り扱いチケットは、ローソン、ミニストップ各店舗で直接購入できます。

チケットぴあ0570-02-9999(Pコード458-648)http://pia.jp/

*チケットぴあの取り扱いチケットは、セブンイレブン、サークルK、サンクス各店舗で直接購入できます。

■主催:公益財団法人茨木市文化振興財団 ■後援:茨木商工会議所/茨木市観光協会

